7 故障かな？と思ったときは

正しく動作せず「故障かな？」と思ったときに参照してください。

ONL-4030aE-ISSDS-000-07-0607

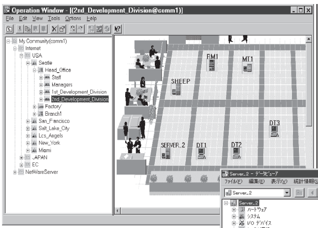
日常の保守

本装置を常にベストな状態でお使いになるために、ここで説明する確認や保守を定期的に行ってください。万一、異常が見られた場合は、無理な操作をせずに保守サービス会社に保守を依頼してください。

アラートの確認

システムの運用中は、ESMPROで障害状況を監視してください。
管理PC上のESMPRO/ServerManagerにアラートが通報されていないか、常に注意するよう心がけてください。ESMPRO/ServerManagerの「統合ビューア」、「データビューア」、「アラートビューア」でアラートが通報されていないかチェックしてください。

ESMPROでチェックする画面



統合ビューア



データビューア



アラートビューア

ステータスランプの確認

本装置の電源をONにした後、およびシャットダウンをして本装置の電源をOFFにする前に、本装置前面にあるランプや、3.5インチデバイスベイに搭載しているハードディスクドライブのランプの表示を確認してください。ランプの機能と表示の内容については1章をご覧ください。万一、本装置の異常を示す表示が確認された場合は、保守サービス会社に連絡して保守を依頼してください。

バックアップ

定期的に本装置のハードディスクドライブ内の大切なデータをバックアップすることをお勧めします。本装置に最適なバックアップ用ストレージデバイスやバックアップツールについてはお買い求めの販売店にお問い合わせください。

ハードウェアの構成を変更したり、BIOSの設定を変更したりした後は、オフライン保守ユーティリティの「システム情報の管理」機能を使ってシステム情報のバックアップをとってください。詳しくは3章を参照してください。

ディスクアレイを構築しているシステムでは、ディスクアレイのコンフィグレーション情報のバックアップをとっておいてください。また、ハードディスクドライブの故障によるリビルドを行った後もコンフィグレーション情報のバックアップをとっておくことをお勧めします。コンフィグレーション情報のセーブは添付のEXPRESSBUILDER (SE) CD-ROMを使用します。5章を参照してください。

クリーニング

本装置を良い状態に保つために定期的にクリーニングしてください。

警告



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- **自分で分解・修理・改造はしない**
- **DVD-ROMドライブの内部をのぞかない**
- **プラグを差し込んだまま取り扱わない**

本体のクリーニング

本装置の外観の汚れは、柔らかい乾いた布でふき取ってください。汚れが落ちにくいときは、次のような方法できれいになります。

重要

- **シンナー、ベンジンなどの揮発性の溶剤は使わないでください。材質のいたみや変色の原因になります。**
- **コンセント、ケーブル、本装置背面のコネクタ、本装置内部は絶対に水などでぬらさないでください。**

1. 本装置の電源がOFF（POWERランプ消灯）になっていることを確認する。

2. 本装置の電源コードをコンセントから抜く。

3. 電源コードの電源プラグ部分についているほこりを乾いた布でふき取る。

4. 中性洗剤をぬるま湯または水で薄めて柔らかい布を浸し、よく絞る。

5. 本装置の汚れた部分を手順4の布で少し強めにこすって汚れを取る。

6. 真水でぬらしてよく絞った布でもう一度ふく。

7. 乾いた布でふく。

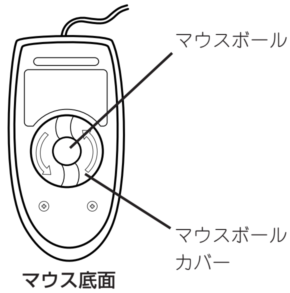
8. 乾いた布で装置背面にある吸気口や排気口に付着しているほこりをふき取る。

キーボード／マウスのクリーニング

キーボードは本装置および周辺装置を含むシステム全体の電源がOFF（POWERランプ消灯）になっていることを確認した後、キーボードの表面を乾いた布で拭いてください。
マウスが正常に機能するためには、内部のマウスボールがスムーズに回転できる状態でなければなりません。マウスボールの汚れを防ぐためにほこりの少ない場所で使用して、定期的に次の手順でクリーニングしてください。

1. 本装置の電源がOFF（POWERランプ消灯）になっていることを確認する。

2. マウスを裏返してマウスボールカバーを反時計回りに回して中からマウスボールを取り出す。



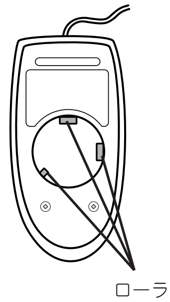
マウス底面

3. マウスボールを乾いた柔らかい布などでふいて、汚れを取り除く。

   汚れがひどいときはぬるま湯または水で薄めた中性洗剤を少量含ませてふいてください。

4. マウス内部にある3つの小さなローラを綿棒などでふく。

   汚れがひどいときはアルコールなどを少量含ませてふいてください。



5. マウスボールをマウスの中に戻す。

   手順3、4でマウスボールやローラをぬらした場合は、十分に乾燥させてからボールを入れてください。

6. マウスボールカバーを元に戻して、時計回りに回してロックする。

DVD/CD-ROMのクリーニング

ディスクにほこりがついていたり、トレーにほこりがたまっていたりするとデータを正しく読み取れません。次の手順に従って定期的にトレー、ディスクのクリーニングを行います。

1. 本装置の電源がON（POWERランプ点灯）になっていることを確認する。
2. DVD-ROMドライブ前面のトレーイジェクトボタンを押す。

   トレーが出てきます。
3. ディスクを軽く持ちながらトレーから取り出す。

   重要

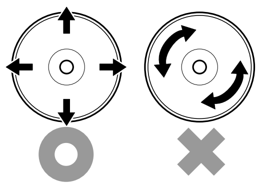
   ディスクの信号面に手が触れないよう注意してください。
4. トレー上のほこりを乾いた柔らかい布でふき取る。

   重要

   DVD-ROMドライブのレンズをクリーニングしないでください。レンズが傷ついて誤動作の原因となります。
5. トレーを軽く押してトレーをDVD-ROMドライブに戻す。
6. ディスクの信号面を乾いた柔らかい布でふく。

   重要

   ディスクは、中心から外側に向けてふいてください。クリーナをお使いになるときは、専用のクリーナであることをお確かめください。レコード用のスプレー、クリーナ、ベンジン、シンナーを使用すると、ディスクの内容が読めなくなったり、本装置にそのディスクをセットした結果、故障したりするおそれがあります。



テープドライブのクリーニング

テープドライブのヘッドの汚れはファイルのバックアップの失敗やテープカートリッジの損傷の原因となります。定期的に専用のクリーニングテープを使ってクリーニングしてください。クリーニングの時期やクリーニングの方法、および使用するテープカートリッジの使用期間や寿命についてはテープドライブに添付の説明書を参照してください。

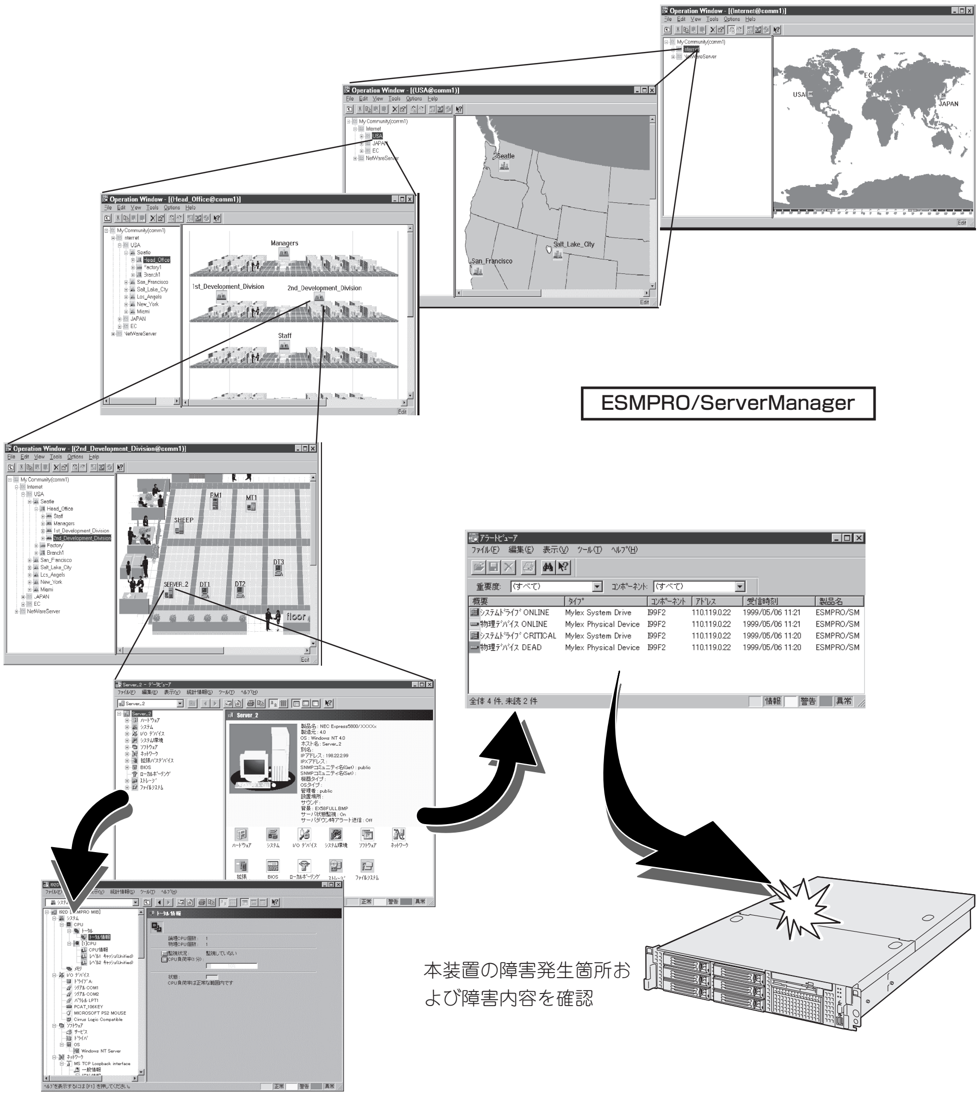
障害時の対処

「故障かな？」と思ったときは、ここで説明する内容について確認してください。該当することがらがある場合は、説明に従って正しく対処してください。

障害箇所の切り分け

万一、障害が発生した場合は、ESMPRO/ServerManagerを使って障害の発生箇所を確認し、障害がハードウェアによるものかソフトウェアによるものかを判断します。
障害発生個所や内容の確認ができたら、故障した部品の交換やシステム復旧などの処置を行います。

障害がハードウェア要因によるものかソフトウェア要因によるものかを判断するには、ESMPRO/ServerManagerが便利です。

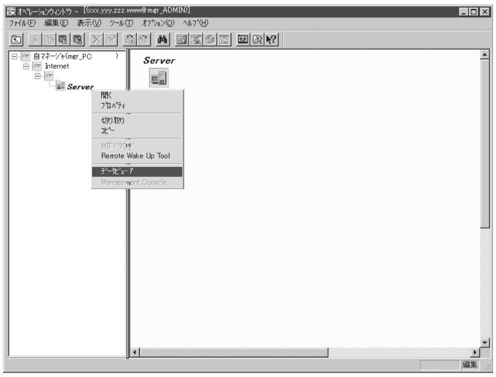


ESMPRO/ServerManager上で本装置を監視している際に、本装置を示すアイコンが[警告](黄色)や[異常](赤色)を示した場合、本装置が故障した可能性があります。この場合、以下の手順でどの部分に異常・警告が発生しているかを特定し、対処を行ってください。

1. ESMPRO/ServerManagerのウィンドウで、左側のツリー構造上の対応する本装置を示すアイコンを右クリックする。
2. メニューから「データビューア」を選択する。
3. データビューアのウィンドウで、異常·警告の出ているアイコンを探し、その発生箇所を特定する。

   各構成情報のツリーを開いていくことで、その部品の詳細情報を見ることができます。

   例えば、「ストレージ」ー「ハードディスク」ー「[1]ハードディスク」ー「xx情報」などを参照することで、このハードディスクの詳細な情報が表示されます。

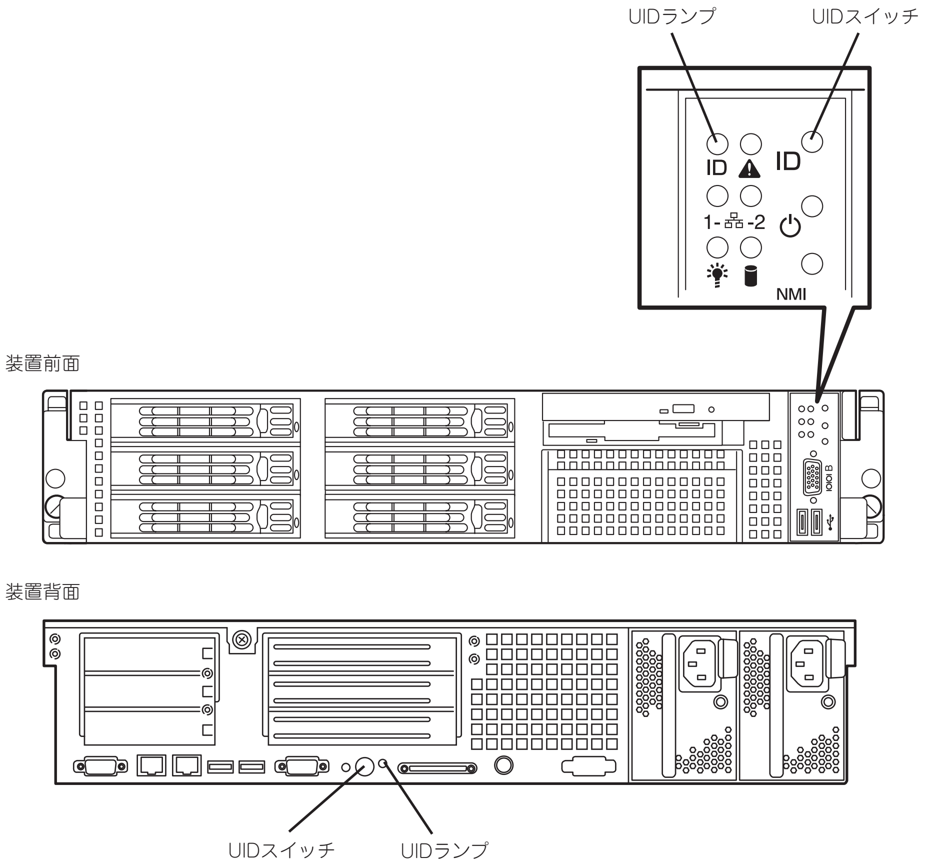


詳細は、ESMPRO/ServerManagerのヘルプを参照してください。ESMPRO/ServerManagerのヘルプはインストールした管理用PCの「スタート」メニューから「ESMPRO」を選んで表示されるメニューから[ESMPRO/SM]や[データビューア]のヘルプを選択してください。

サーバの確認(UIDスイッチ)

複数の本装置を1つのラックに搭載している場合、保守をしようとしている装置がどれであるかを見分けるために装置の前面および背面にある「UIDランプ」で確認します。

UIDスイッチを押すとUIDランプが点灯します。もう一度押すとランプは消灯します。
ラック背面からの保守は、暗く、狭い中での作業となり、正常に動作している本装置の電源やインタフェースケーブルを取り外したりするおそれがあります。UIDスイッチを使って保守する本装置を確認してから作業をすることをお勧めします。



POSTのチェック

POST(Power On Self-Test)は、本装置のマザーボード内に記録されている自己診断機能です。
POSTは本装置の電源をONにすると自動的に実行され、マザーボード、メモリ、CPU、キーボード、マウスなどをチェックします。また、管理PCからDianaScopeを起動し、本体に接続すると管理PC上にPOST実行内容が表示され、各種のBIOSセットアップユーティリティの起動メッセージなども表示します(DianaScopeからの接続方法についてはEXPRESSBUILDER (SE) CD-ROM内のオンラインドキュメントで説明しています)。

本装置の出荷時の設定では管理PCと通信されていない場合、POSTを実行している間、ディスプレイ装置には「NEC」ロゴが表示されます。

ヒント

「NEC」ロゴの表示中に<Esc>キーを押さなくても、はじめからPOSTの診断内容を表示させることができます。6章の「システムBIOS」の「Advanced」にある「Boot-time Diagnostic Screen」の設定を「Enabled」に切り替えてください。

POSTの実行内容は常に確認する必要はありません。次の場合にPOST中に表示されるメッセージを確認してください。

- 「故障かな？」と思ったとき
- 電源ONからOSの起動の間に何度もビープ音がしたとき
- ディスプレイ装置に何らかのエラーメッセージが表示されたとき

POSTの流れ

次にPOSTで実行される内容を順を追って説明します。

重要

- **POSTの実行中は、不用意なキー入力やマウスの操作をしないようにしてください。**
- **システムの構成によっては、ディスプレイの画面に「Press Any Key」とキー入力を要求するメッセージを表示する場合もあります。これは取り付けたオプションのボードのBIOSが要求しているためのものです。オプションの説明書にある説明を確認してから何かキーを押してください。**
- **オプションのPCIボードの取り付け／取り外し／取り付けているスロットの変更をしてから電源をONにすると、POSTの実行中に取り付けたボードの構成に誤りがあることを示すメッセージを表示してPOSTをいったん停止することがあります。**

  この場合は<F1>キーを押してPOSTを継続させてください。ボードの構成についての変更／設定は、この後に説明するユーティリティを使って設定できます。

1. 電源ON後、POSTが起動し、メモリチェックを始めます。ディスプレイ装置の画面左上に搭載メモリのサイズなどのメッセージが表示されます。本体に搭載されているメモリの量によっては、メモリチェックが完了するまでに数分かかる場合もあります。同様に再起動(リブート)した場合など、画面に表示をするのに約1分程の時間がかかる場合があります。
2. メモリチェックを終了すると、いくつかのメッセージが表示されます。これらは搭載しているCPUや接続しているキーボード、マウスなどを検出したことを知らせるメッセージです。

3. 本体に内蔵のSCSIコントローラを検出し、SCSI BIOSセットアップユーティリティの起動を促すメッセージが表示されます(そのまま何も入力せずにいると数秒後にPOSTを自動的に続けます)。

```
Press <Ctrl> <A> for SCSISelect(TM) Utility!
```

ここで<Ctrl>キーと<A>キーを押すとユーティリティが起動します。設定方法やパラメータの機能については、6章の「SCSI BIOSコンフィグレーション」を参照してください。ユーティリティを使用しなければならない例としては次のような場合があります。

- バックアップデバイスベイにSCSI機器を取り付けた場合
- 外付けSCSI装置を接続した場合
- システム内部のSCSI装置の接続を変更した場合
- マザーボード上のディスクアレイコントローラ(Adaptec HostRAID)を利用したRAIDの構築・変更・保守をする場合

ユーティリティを終了すると、自動的にもう一度はじめからPOSTを実行します。
本体のPCIバスに複数のSCSIコントローラボードを搭載しているときは、SCSI BIOSセットアップユーティリティの起動メッセージを表示します。

4. 接続しているSCSI装置が使用しているSCSI ID番号などを画面に表示します。

5. しばらくすると、マザーボードにあるBIOSセットアップユーティリティ「SETUP」の起動を促すメッセージが画面左下に表示されます(メッセージはシステムの構成などによって多少異なります)。

```
Press <F2> to enter SETUP
```

使用する環境にあった設定に変更するときに起動してください。エラーメッセージを伴った上記のメッセージが表示された場合を除き、通常では特に起動して設定を変更する必要はありません(そのまま何も入力せずにいると数秒後にPOSTを自動的に続けます)。

SETUPを起動するときは、メッセージが表示されている間に<F2>キーを押します。設定方法やパラメータの機能については、6章を参照してください。SETUPを終了すると、自動的にもう一度はじめからPOSTを実行します。

6. <本装置のPCIバスに起動可能なオプションROMを搭載したPCIボードを搭載している場合>

搭載したボードのBIOSセットアップユーティリティの起動を促すメッセージが表示されます。

本装置のPCIバスに起動可能なオプションROMを搭載したPCIボードを複数搭載しているときは、通常、1B→1C→2C→3C→3B→2Bのスロット番号順で搭載しているボードのBIOSセットアップユーティリティの起動メッセージを表示します(搭載したボードにより順番が変更になる場合もあります)。操作方法については、それぞれのボードに添付の説明書を参照してください。

7. BIOSセットアップユーティリティ「SETUP」でパスワードの設定をすると、パスワードを入力する画面が表示される場合があります。

パスワードの入力は、3回まで行えます。3回とも入力を誤ると本装置を起動できなくなります。この場合は、本装置の電源をOFFにしてから、10秒程度時間をあけてから再度、本装置の電源をONにして本装置を起動し直してください。

重要

OSをインストールするまではパスワードを設定しないでください。

8. POSTを終了するとOSを起動します。

POSTのエラーメッセージ

POST中にエラーを検出するとディスプレイ装置の画面にエラーメッセージを表示されるか、ビープ音が鳴ります。エラーメッセージの表示内容やビープ音の鳴り方、その意味や対処方法については、次項を参照してください。

重要 保守サービス会社に連絡するときはディスプレイの表示やビープ音の鳴り方をメモしておいてください。アラーム表示は保守を行うときに有用な情報となります。

エラーメッセージ

本装置に何らかの異常が起きるとさまざまな形でエラーを通知します。ここでは、エラーメッセージの種類について説明します。

ランプによるエラーメッセージ

本装置の前面や背面にあるランプはさまざまな状態を点灯、点滅、消灯によるパターンや色による表示でユーザーに通知します。「故障かな？」と思ったらランプの表示を確認してください。ランプ表示とその意味については1章をご覧ください。

POST中のエラーメッセージ

本装置の電源をONにすると自動的に実行される自己診断機能「POST」中に何らかの異常を検出すると、ディスプレイ装置の画面にエラーメッセージが表示されます（場合によってはその対処方法も表示されます）。

```
Phoenix BIOS 4.0 Release 6.0.XXXX
          :
CPU=Pentium Xeon Processor X.X GHz
0640K System RAM Passed
0127M Extended RAM Passed
WARNING
0B60: DIMM #1 has been disabled.
          :

Press <F1> to resume, <F2> to setup
```

メモリの故障を示すメッセージ（例ではメモリ#1が故障した場合の表示）

また、ビープ音のパターンでエラーを通知することもあります。
次ページ以降の表で、画面に表示されるメッセージやビープ音とその意味、対処方法について説明します。

重要 **保守サービス会社に連絡するときはディスプレイの表示やビープ音のパターンをメモしておいてください。アラーム表示は保守を行うときに有用な情報となります。**

ヒント ここで記載されているPOSTのエラーメッセージ一覧は本装置単体のものです。マザーボードに接続されているオプションボードに搭載されているBIOSのエラーメッセージとその対処方法についてはオプションに添付の説明書を参照してください。

ディスプレイに表示されるエラーメッセージ

次にエラーメッセージの一覧と原因、その対処方法を示します。

ディスプレイ上のエラーメッセージ		意　味	対処方法
0200	Failure Fixed Disk.	ハードディスクドライブエラー。	保守サービス会社に連絡してください。
0210	Stuck Key.	キーボード接続エラー。	キーボードを接続し直してください。
0213	Keyboard locked - Unlock key switch.	キーボードがロックされている。	キースイッチのロックを解除してください。ロックを解除しても直らない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
0220	Monitor type does not match CMOS - Run SETUP.	モニタのタイプがCMOSと一致しない。	SETUPを起動してください。SETUPで直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0230	System RAM Failed at offset.	システムRAMエラー。	保守サービス会社に連絡してください。
0231	Shadow Ram Failed at offset.	シャドウRAMエラー。	保守サービス会社に連絡してください。
0232	Extended RAM Failed at address line.	拡張RAMエラー。	
0250	System battery is dead - Replace and run SETUP.	システムのバッテリがない。	保守サービス会社に連絡してバッテリを交換してください。(コンピュータを再起動後、SETUPを起動して設定し直してください。
0251	System CMOS checksum bad - Default configuration used.	システムCMOSのチェックサムが正しくない。	デフォルト値が設定されました。SETUPを起動して、設定し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0252	Password checksum bad - Passwords cleared.	パスワードのチェックサムが正しくない。	パスワードがクリアされました。SETUPを起動して設定し直してください。
0260	System timer error.	システムタイマーエラー。	SETUPを起動して、時刻や日付を設定し直してください。設定し直しても同じエラーが続けて起きるときは保守サービス会社に連絡してください。
0270	Real time clock error.	リアルタイムクロックエラー。	
0271	Check date and time setting.	リアルタイムクロックの時刻設定に誤りがある。	
02B0	Diskette drive A error.	フロッピーディスクドライブAのエラー。	SETUPを起動して、「Main」メニューの「Legacy Floppy A」を設定し直してください。設定し直しても同じエラーが続けて起きるときは保守サービス会社に連絡してください。
02B2	Incorrect Drive A type - run SETUP.	フロッピーディスクドライブAのタイプが正しくない。	SETUPを起動して、設定し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
02D0	System cache error - Cache disabled.	システムキャッシュエラー。	キャッシュを使用できません。保守サービス会社に連絡してください。
02D1	System Memory exceeds the CPU's caching limit.	メモリがCPUのキャッシュの限界を超えた。	保守サービス会社に連絡してください。
02F4	EISA CMOS not writeable.	EISA CMOSに書き込めない。	
02F5	DMA Test Failed.	DMAテストエラー。	
02F6	Software NMI Failed.	ソフトウェアNMIエラー。	
02F7	Fail-safe Timer NMI Failed.	フェイルタイマのNMIエラー。	
0B22	Processors are installed out of order.	プロセッサの故障。	保守サービス会社に保守を依頼してCPUを交換してください。
0B28	Unsupported Processor detected on Processor 1.	CPU #1ソケットにサポートしていないCPUが搭載されている。	保守サービス会社に連絡して保守を依頼してください。
0B29	Unsupported Processor detected on Processor 2.	CPU #2ソケットにサポートしていないCPUが搭載されている。	

ディスプレイ上のエラーメッセージ		意　味	対処方法
0B30	Fan 1 Alarm occurred.	ファンの異常。	ファンの故障、またはファンの目詰まりが考えられます。保守サービス会社に連絡して保守を依頼してください。
0B31	Fan 2 Alarm occurred.		
0B32	Fan 3 Alarm occurred.		
0B33	Fan 4 Alarm occurred.		
0B34	Fan 5 Alarm occurred.		
0B35	Fan 6 Alarm occurred.		
0B36	Fan 7 Alarm occurred.		
0B37	Fan 8 Alarm occurred.		
0B5F	Forced to use Processor with error	CPUエラーを検出した。	CPUでエラーを検出したため、強制的に起動しています。保守サービス会社に連絡してください。
0B60	DIMM group #1 has been disabled	メモリエラーを検出した。メモリグループ#1が縮退している。	保守サービス会社に連絡してください。
0B61	DIMM group #2 has been disabled	メモリエラーを検出した。メモリグループ#2が縮退している。	
0B62	DIMM group #3 has been disabled	メモリエラーを検出した。メモリグループ#3が縮退している。	
0B63	DIMM group #4 has been disabled	メモリエラーを検出した。メモリグループ#4が縮退している。	
0B70	The error occurred during temperature sensor reading.	温度異常を検出する途中にエラーを検出した。	保守サービス会社に連絡してください。
0B71	System Temperature out of the range.	温度異常を検出した。	ファンの故障、またはファンの目詰まりが考えられます。保守サービス会社に連絡して保守を依頼してください。
0B74	The error occurred during voltage sensor reading.	電圧を検出中にエラーが起きた。	保守サービス会社に連絡してください。
0B75	System voltage out of the range.	システムの電圧に異常を検出した。	
0B80	BMC Memory Test Failed.	BMCデバイス(チップ)のエラー。	一度電源をOFFにして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0B81	BMC Firmware Code Area CRC check failed.		
0B82	BMC core Hardware failure.		
0B83	BMC 1BF or 0BF check failed.	BMCのアドレスへのアクセスに失敗した。	
0B8A	BMC SEL area full.	システムイベントログを書き込める容量がない。	SETUPを起動して、「Server」メニューの「Event Log Configuration」で、「Clear All Error Logs」を選び、<Enter>キーを押してログを消去してください。
0B8B	BMC progress check timeout.	BMCチェックを一時中断した。	一度電源をOFFにして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0B8C	BMC command access failed.	BMCコマンドアクセスに失敗した。	
0B8D	Could not redirect the console - BMC Busy -	コンソールリダイレクトができない(BMCビジー)。	
0B8E	Could not redirect the console - BMC Error -	コンソールリダイレクトができない(BMCエラー)。	
0B8F	Could not redirect the console - BMC Parameter Error -	コンソールリダイレクトができない(BMCパラメータエラー)。	
0B90	BMC Platform Information Area corrupted.	BMCデバイス(チップ)エラー。	一度電源をOFFにして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0B91	BMC update firmware corrupted.		
0B92	Internal Use Area of BMC FRU corrupted.	Chassis情報を格納したSROMの故障。	致命的な障害ではありませんが、一度電源をOFFにして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。

ディスプレイ上のエラーメッセージ		意　味	対処方法
0B93	BMC SDR Repository empty.	BMC デバイス(チップ)エラー。	一度電源を OFF にして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0B94	IPMB signal lines do not respond.	SMC (Sattelite Management Controller) の故障。	致命的な障害ではありませんが、一度電源を OFF にして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0B95	BMC FRU device failure.	Chassis 情報を格納した SROM の故障。	致命的な障害ではありませんが、一度電源を OFF にして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0B96	BMC SDR Repository failure.	センサデータレコード情報を格納した SROM の故障。	一度電源を OFF にして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0B97	BMC SEL device failure.	BMC デバイス(チップ)の故障。	
0B98	BMC RAM test error.	BMC RAM のエラー。	
0B99	BMC Fatal hardware error.	BMC のエラー。	
0B9A	Management controller not responding.	BMC のエラー。	RMC のファームウェアをアップロードしてください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0B9B	Private I2C bus not responding.	プライベート I2C バスより無応答。	一度電源を OFF にして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
0B9C	BMC internal exception.	BMC のエラー。	
0B9D	BMC A/D timeout error.	BMC のエラー。	
0B9E	SDR repository corrupt.	BMC のエラーまたは SDR のデータの破損。	
0B9F	SEL corrupt.	BMC のエラーまたはシステムイベントログのデータの破損。	
0BB0	SMBIOS - SROM data read error.	SROM のデータリードエラー。	保守サービス会社に連絡してください。
0BB1	SMBIOS - SROM data checksum bad.	SROM のデータチェックサムエラー。	
8100	Memory Error detected in DIMM group #1.	メモリエラーを検出した。	保守サービス会社に連絡して該当するグループの DIMM を交換してください。
8101	Memory Error detected in DIMM group #2.		
8102	Memory Error detected in DIMM group #3.		
8103	Memory Error detected in DIMM group #4.		
	Expansion ROM not initialized - PCI Mass Storage Controller in slot xx	オプション ROM の展開領域が不足。	SCSI コントローラで、OS がインストールされているハードディスクドライブを接続しない場合はそのボードの ROM 展開を無効にしてください。「システム BIOS コンフィグレーション (SETUP)」の PCI Configuration サブメニュー(199 ページ)を参照してください。
	H/W Configuration of BMC is corrupted. !!Update BMC F/W Configuration by configuration tool!! !!Refer to BMC configuration manual!!	リモートマネージメントカード / アドバンスドリモートマネージメントカードの初期設定が行われていません。	EXPRESSBUILDER を使用して「リモートマネージメントカードの初期設定」(153 ページ)から本体装置固有情報の設定を行ってください。

ビープ音によるエラー通知

POST中にエラーを検出しても、ディスプレイ装置の画面にエラーメッセージを表示できない場合があります。この場合は、一連のビープ音でエラーが発生したことを通知します。エラーはビープ音のいくつかの音の組み合わせでその内容を通知します。
たとえば、ビープ音が1回、連続して3回、1回、1回の組み合わせで鳴った(ビープコード:1-3-1-1)ときはDRAMリフレッシュテストエラーが起きたことを示します。

次にビープコードとその意味、対処方法を示します。

ビープコード	意　味	対処方法
3-3-(繰り返し)	ROMチェックサムエラー	保守サービス会社に連絡してマザーボードを交換してください。
1-2-2-3	ROMチェックサムエラー	
1-3-1-1	DRAMリフレッシュテストエラー	DIMMの取り付け状態を確認してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してDIMMまたはマザーボードを交換してください。
1-3-1-3	キーボードコントローラテストエラー	キーボードを接続し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してマザーボードを交換してください。
1-3-3-1	メモリを検出できない メモリの容量チェック中のエラー	DIMMの取り付け状態を確認してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してDIMM、またはマザーボードを交換してください。
1-3-4-1	DRAMアドレスエラー	
1-3-4-3	DRAMテスト Low Byteエラー	
1-4-1-1	DRAMテスト High Byteエラー	
1-5-1-1	CPUの起動エラー	保守サービス会社に連絡してマザーボードを交換してください。
1-5-2-1	CPUが搭載されていない	保守サービス会社に連絡してCPUまたはマザーボードを交換してください。
1-5-4-4	電源異常	保守サービス会社に連絡してマザーボードを交換してください。
2-1-2-3	BIOS ROMコピーライトテストエラー	
2-2-3-1	不正割り込みテストエラー	
1-2	オプションROM初期化エラー	SETUPの設定を確認してください。 また、増設したPCIボードのオプション ROMの展開が表示されない場合は、PCIボードの取り付け状態を確認してください。 それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡して、増設したPCIボード、またはマザーボードを交換してください。

ヒント

ビープコード「1-5-4-2」の鳴動は停電や瞬断などによりAC電源の供給が遮断され、システムの再起動が行われたことを通知するものです。異常ではありません。

Windowsのエラーメッセージ

Windowsオペレーティングシステムの起動後に致命的なエラー(STOPエラーやシステムエラー)が起きるとディスプレイ装置の画面がブルーに変わり、エラーに関する詳細なメッセージが表示されます。

```
*** STOP: 0x0000000A (0x00000074, 0x00000002, 0x00000001, 0x80108E7A)
IRQL_NOT_LESS_OR_EQUAL*** Address 80108E7A has base at 8010000 _ ntoskrnl.exe
```

画面のバックグラウンドの色は「ブルー」

画面に表示されたメッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。
また、このエラーが起きると本装置は自動的にメモリダンプを実行し任意のディレクトリにメモリダンプのデータを保存します。「メモリダンプ(デバッグ情報)の設定」(3章)を参照してください。

のちほど保守サービス会社の保守員からこのデータを提供していただくよう依頼される場合があります。MOやDATなどのメディアにファイルをコピーしての保守員に渡せるよう準備しておいてください。

重要

STOPエラーやシステムエラーが発生しシステムを再起動したとき、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのまま起動してください。

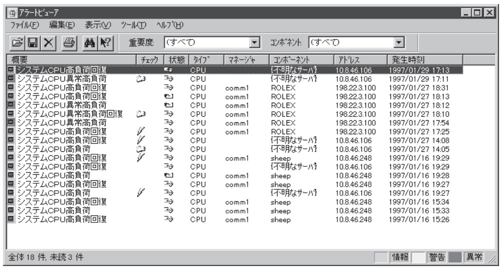
チェック

このファイルをメディアにコピーする前に、イベントビューアを起動して、システムイベントログでSave Dumpのイベントログが記録され、メモリダンプが保存されたことを確認してください。

このほかにもディスクやネットワークなど内蔵デバイスや周辺装置にエラーが起きた場合にも警告メッセージが表示されます。メッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。

サーバ管理アプリケーションからのエラーメッセージ

ESMPRO/ServerAgentやESMPRO/ServerManager、Power Console Plus、Adaptec Storage Managerなど本装置専用の管理ツールを本装置や管理PCへインストールしておくと、何らかの障害が起きたときに管理PCや本装置に接続しているディスプレイ装置から障害の内容を知ることができます。



各種アプリケーションのインストールや運用方法については5章またはオンラインドキュメントを参照してください。
ESMPROを使ったシステム構築や各種設定の詳細についてはオンラインヘルプや、オンラインドキュメントの「Express Server Management Guide」、別売の「ESMPROシステム構築ガイド」で詳しく説明されています。

トラブルシューティング

本装置が思うように動作しない場合は修理に出す前に次のチェックリストの内容に従って本装置をチェックしてください。リストにある症状に当てはまる項目があるときは、その後の確認、処理に従ってください。
それでも正常に動作しない場合は、症状を記録してから、保守サービス会社に連絡してください。

装置本体について　- 導入時の問題 -

初期設定ツールで本装置の自動発見ができない

□ LANケーブルが接続されていない可能性があります。LANポート1にLANケーブルが正しく接続されているか確認してください。

□ 本装置の起動が完了していない可能性があります。初回電源投入時にOSの再設定を行うため、起動に数分〜10分程度時間がかかる場合があります。

□ 本装置が正常に起動していない可能性があります。コンピュータ名の重複やIPアドレス/サブネットマスクの設定に誤りがないか確認してください。

同一ネットワーク上の複数の本装置を再インストールした場合、複数台同時に起動すると2台目以降は正常に起動できません。1台ずつ起動して初期設定を行い、初期設定完了後に次の1台を起動してください。

□ ネットワーク負荷が高い可能性があります。自動発見オプションの設定でオプションの値を変更してください。

初期設定ツールでIPアドレスを変更できない

□ 初期設定ツール起動時に[次回からこのツールでの変更を不可にする]のチェックボックスにチェックして設定を更新してしまうと、初期設定ツールを使用してIPアドレス等を変更することができなくなります。

この場合は、WebUIを起動し、[ネットワーク]ー[インターフェイス]より、変更を行いたい対応したNICを選択し、タスクの[IP]をクリックすることで、IPアドレスなどの設定を変更できるようになります。

初期設定ツールで設定変更が開始できない

□ 初期設定ツールの一覧で「初期設定サービス」が停止となっている場合、初期設定ツールによる設定変更はできません。管理ツールWebUIを使用して設定変更を行ってください。

初期設定ツールでサーバの自動発見後や、サーバ選択時に初期設定変更サービスを停止するよう促されるメッセージが表示される

□ 初期設定ツールでは、IPアドレスやマシン名などを変更可能ですが、サーバでこれに対応する、初期設定変更サービスを起動したままにしておくと、セキュリティホールとなる可能性があります。そのため、初期設定ツールでは、そのような状態のサーバが存在する場合、サービスを停止するよう促すため、警告ダイアログメッセージを表示する仕様となっています。ご了承ください。

初期設定ツールで設定変更ができない

- □ コンピュータ名やIPアドレスを誤って設定した可能性があります。同一ネットワーク上にコンピュータ名やIPアドレスが同じマシンが存在しないか確認してください。もしコンピュータ名やIPアドレスを重複して設定してしまった場合は、重複したマシンをいったんネットワークから切り離して、本装置を再起動し、初期設定ツールで設定変更してください。
- □ 複数のLANポートにケーブルが接続されている可能性があります。複数のLANポートを使用する場合は、まずLANポート1のみにケーブルを接続して初期設定を行い、初期設定完了後に残りのコネクタにケーブルを接続してください。

初期設定ツールで管理ツールWebUIの起動ができない

- □ 本装置の一覧でWebUI起動が可となっている装置に対して 管理ツールWebUIの起動ができない場合は、ネットワークの設定またはブラウザの設定に問題がある可能性があります。 本装置および、初期設定ツールを動作させているWindowsマシンのネットワークの設定、およびブラウザの設定を確認してください。 なお、管理ツールWebUIは Internet Explorer 5.5以上で動作します。初期設定ツールを使用する前に、通常使用するブラウザをInternet Explorer 5.5以上に設定しておいてください。
- □ 本装置の一覧でWebUI起動が不可となっている場合、管理ツールWebUIの起動はできません。初期設定サービスが起動中の場合は、初期設定ツールで正しく設定変更を行ってください。初期設定サービスが停止の場合は、ネットワークの設定に問題がある可能性があります。初期設定ツールを動作させているWindowsマシンのネットワークの設定を確認してください。

初期設定ツールでWebUI起動が不可と表示される

- □ 初期設定が完了していない場合は、WebUI起動が不可となります(DHCPサーバからアドレスを取得できない場合)。初期設定ツールで初期設定を行ってください。
- □ 初期設定が完了した本装置についてWebUI起動が不可となる場合は、ネットワークの設定に問題がある可能性があります。本装置および、初期設定ツールを動作させているWindowsマシンが同一ネットワークに属しているか確認してください。
- □ WebUI起動の確認に時間がかかり、不可となってしまう場合があります。もう一度自動発見を行って可とならないか確認してください。なお、本装置の一覧でWebUI起動が不可となっている場合、管理ツールWebUI の起動はできません。

装置本体について - 運用時の問題 -

電源がONにならない

□ 電源が本装置に正しく供給されていますか?

→ 電源コードが本装置の電源規格に合ったコンセント(またはUPS)に接続されていることを確認してください。

→ 本装置に接続されている電源コードを使用してください。また、電源コードの被覆が破れていたり、プラグ部分が折れていたりしていないことを確認してください。

→ 接続したコンセントのブレーカがONになっていることを確認してください。

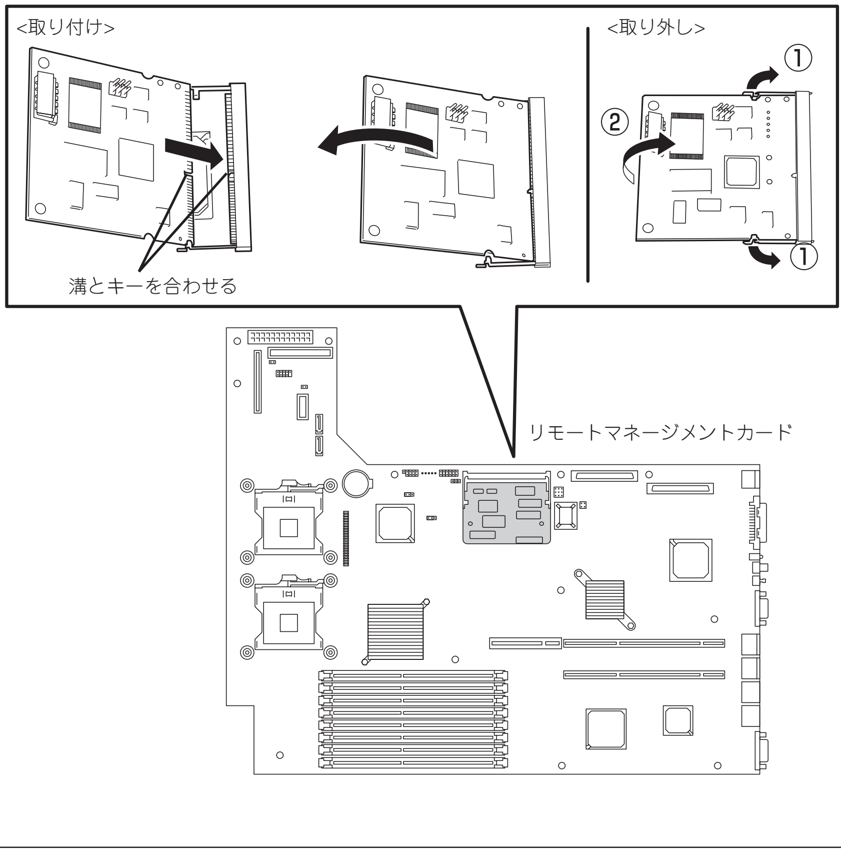
→ UPSに接続している場合は、UPSの電源がONになっていること、およびUPSから電力が出力されていることを確認してください。詳しくはUPSに添付の説明書を参照してください。
また、本装置のBIOSセットアップユーティリティでUPSとの電源連動機能の設定ができます。

□ POWERスイッチを押しましたか?

→ 本装置前面にあるPOWERスイッチを押して電源をON(POWERランプ点灯)にしてください。

□ リモートマネージメントカードは正しく取り付けられていますか?

→ オプションの取り付け・取り外しなどで本体内部の部品にアクセスした際に標準装備のリモートマネージメントカードがマザーボードから外れてしまっていることが考えられます。リモートマネージメントカードの取り付け状態を確認してください。



起動しない

□ DVD-ROMドライブにEXPRESSBUILDER（SE）CD-ROMをセットしていませんか？

→ DVD-ROMドライブにEXPRESSBUILDER（SE）CD-ROMをセットしている場合は、CD-ROMから起動しています。CD-ROMを取り出して再起動してください。

□ フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクをセットしていませんか？

→ フロッピーディスクを取り出して再起動してください。。

ブラウザがWebUIを見つけることができない

□ 正しいURLを入力していますか？

→ 正しいURLは、「https://hostname:8098/」または「http://hostname:8099/」です。「hostname」の部分には本装置のコンピュータ名またはIPアドレスを入力してください。

□ 正しいポート番号を指定していますか？

→ ポート「8098」を使用する場合は、URLウィンドウでhttps://を指定していることを確認してください。https://を付けずにアプリケーションのアドレスを入力すると、動作しません。

WebUIが正しく動作しない

□ 正しいWebブラウザを使用していますか？

→ サポートしているWebブラウザは、Internet Explorer 5.5以降です。それ以外のバージョンおよびNetscapeはサポートしていないので、正しく動作しません。

WebUIに接続すると、ブラウザで「ページが表示できません」というエラー画面が表示される

□ 正しいURLを指定していますか？また、マシン名やIPアドレス等を変更していませんか？

→ ネットワーク負荷がかかっているか、本装置へのアクセスが集中して、レスポンスが遅くなっている可能性があります。しばらく待ってから再びアクセスしてください。

→ 本装置の管理Webサイトが停止している可能性があります。リモートデスクトップ機能を用いるか、本装置を直接操作し、以下の操作を行ってください。

1. 本装置のデスクトップの「インターネット インフォメーション サービス（IIS）マネージャ」を起動する。
2. 左側のツリーより[サーバー名]－[Webサイト]を開く。
3. [Administration]が停止していた場合、選択して右クリックし、[開始]を選択する。

→ 必要なサービスが停止している可能性があります。リモートデスクトップ機能を用いるか、本装置を直接操作し、下記サービスが起動していることを確認してください。

－ IIS Admin Service
－ Web Wide Web Publishing Service
－ HTTP SSL

WebUIに接続すると、ブラウザで「Internet Explorerのセキュリティの設定により、リモート管理用Webインターフェイスは利用できません。」という画面が表示される。

□ クライアント側のブラウザは正しく設定されていますか？

→ WebUIにアクセスするには、クライアント側のスクリプトを有効にしなければなりません。また、WebUIの機能のいくつかは ActiveXコントロールとファイルのダウンロードが有効である場合にのみ正しく動作します。
Internet Explorerを使用する場合、ゾーンの構成に応じて、「信頼済みサイト」または「ローカル イントラネット」のゾーンにそのWebサイトを追加することで、これらの機能を有効にすることができます。セキュリティ ゾーンおよび設定についての詳細は、Internet Explorer のヘルプを参照してください。
なお、WebUIを「信頼済みサイト」または「ローカル イントラネット」のセキュリティ ゾーンに追加するには以下の手順で行います。

1. Internet Explorerの[ツール]ー[インターネット オプション]をクリックする。
2. [セキュリティ]タブをクリックし、[信頼済みサイト]または[イントラネット]をクリックしてから、[サイト]をクリックする。
3. [次の Web サイトをゾーンに追加する]ボックスに、このゾーンに追加するWebサイトのインターネットアドレスを入力して、[追加]をクリックする。

WebUIの各種ページに接続すると、ブラウザで「ページが表示できません」というエラー画面や白いページが表示される

□ 必要なWebサイトが停止していませんか？

→ 以下の操作を行い、Webサイトを開始してください。

1. WebUIの[メンテナンス]ー[リモートデスクトップ]より、本装置にログオンする。
2. デスクトップの「インターネット インフォメーション サービス(IIS)マネージャ」を起動する。
3. 左側のツリーより[サーバー名]ー[Webサイト]を開く。
4. 停止しているWebサイトを選択して右クリックし、[開始]を選択する。

□ 必要なサービスが停止していませんか？

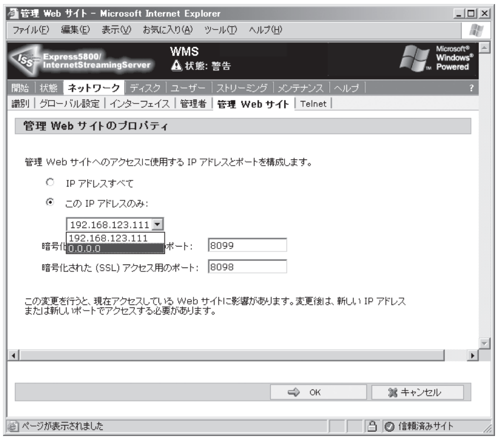
→ リモートデスクトップ機能を用いるか、本装置を直接操作し、必要なサービスが起動していることを確認してください。(該当サービスについては各説明書を参照してください。)

□ 本装置の「Windowsファイアウォール」の詳細設定を正しく設定していますか？

→ 「Windowsファイアウォール」の詳細設定を行った際に適切なサービスポートを許可しなかった可能性があります。4章の「ファイアウォール設定」を参照し、必要なサービスへのアクセスを許可してください。

なお、リモートデスクトップ機能が使用できない場合は、本装置を直接操作し、4章の「ファイアウォール設定」の手順3以降を参照し、「リモートデスクトップ」サービスへのアクセスを許可する必要があります。

□ WebUIの[ネットワーク]ー[管理Webサイト](管理Webサイトのプロパティ)で管理Webサイトへのアクセスに使用するIPアドレスを「0.0.0.0」に設定しませんでしたか？

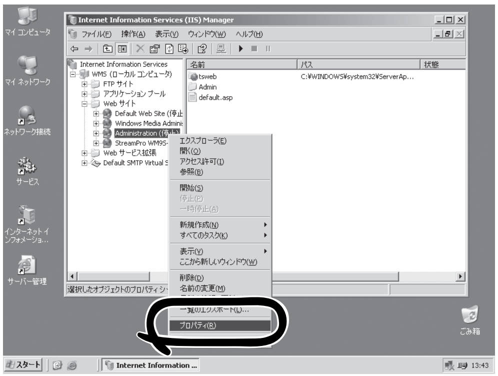


→ NICが正常に機能していない場合(IPアドレスが指定されていない、LANケーブルが繋がっていない等)に、WebUIの[ネットワーク]ー[管理Webサイト](管理Webサイトのプロパティ)で「このIPアドレスのみ」をチェックした際に選択可能となるリスト内に「0.0.0.0」が表示される場合があります。これを設定した場合、不正なパラメータが設定されたとして管理Webサイト「Administration」が停止してしまいます。正常に開始するには、本装置へローカルアクセスし、次の作業を行ってください。

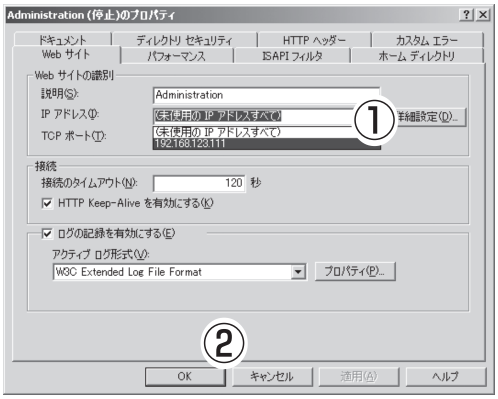
1. デスクトップ上にある「インターネット インフォメーション サービス(IIS)マネージャ」ショートカットをダブルクリックする。

2. 停止している「Administration」サイトを右クリックし、「プロパティ」を選択する。

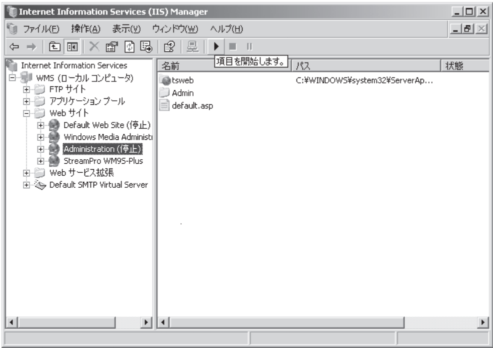
   [Webサイト]タブが選択された状態でAdministrationのプロパティが開きます。



3. 「Webサイトの識別」内の「IPアドレス」のリストボックスからNIC1に指定されているIPアドレスを選択し、[OK]または[適用]をクリックする。



4. 「Administration」サイトを選択し、[開始]ボタンをクリックする。



以上で、NIC1のIPアドレスを用いて、リモートマシンからWebUIでアクセスすることが可能になります。なお、今後「0.0.0.0」が表示された場合は、これを選択しないようにしてください。

重要

- **「Administration」サイトが正常に開始した後は、「未使用のIPアドレスのすべて」を選択し直すことが可能です。また、NIC2にIPアドレスが正常に指定されている場合には、NIC2のIPアドレスを指定することも可能です。**
- **手順2-3を行わずに、「Administration」サイトを起動しようとしてもエラーとなり、起動できませんので注意してください。**



リモートデスクトップ機能を使用した際に以下のエラーが表示される



□ リモートデスクトップへの接続制限数を超えていませんか？

→ リモートデスクトップ接続で許可された最大接続数を超過している可能性があります。リモートデスクトップ接続している他の画面を終了させてください。

その後も同様のメッセージが表示される場合は、一度ブラウザを終了した後しばらく経ってから操作を行ってください。約15分で使用されていないセッションの場合は自動的に切断されます。

それでもメッセージが表示される場合は、本装置を再起動してください。

なお、リモート管理用として一度に実行できるセッションは2つのみです。セッションを実行したままにすると、他のユーザーの操作に影響を与える可能性があります。処理が終わったら、必ずセッションを切断してください。

□ 本装置の「Windowsファイアウォール」の詳細設定を正しく設定していますか？

→ 「Windowsファイアウォール」の詳細設定を行った際に、「リモートデスクトップ」を許可しなかった可能性があります。

この状態になってしまうと、リモートデスクトップ機能は使用できません。本装置を直接操作し、4章の「ファイアウォール設定」の手順3以降を参照し、「リモートデスクトップ」他、必要なサービスへのアクセスを許可してください。

□ リモートデスクトップへの接続設定を無効にしていませんか？

→ 本装置の「マイコンピュータ」のプロパティの[リモート]設定で、リモートデスクトップ接続を許可するチェックボックスをはずしてしまった可能性があります。

本装置を直接操作し、上記チェックボックスを選択してください。

WebUIで設定した変更内容に更新されていない

□ 設定を変更したら、[OK]をクリックして、変更を有効にしてください。また再起動の指示があった場合は、指示に従って再起動してください。

電源がOFFにならない

□ セッション中にPOWERスイッチを押しませんでしたか？

→ リモートデスクトップでログイン時、もしくはセッションが切断されていない状態で、本装置のPOWERスイッチを押してしまった可能性があります。その場合、本装置のPOWERスイッチを押してもシャットダウンすることができません。この状態では、WebUIを使用したシャットダウン、リモートデスクトップからのシャットダウンができなくなります。本装置にキーボードもしくはマウスとディスプレイを接続すると、画面に次のメッセージが表示されています。



[OK]を選択してシャットダウンさせてください。

ここで、画面に何も表示されていない場合、もしくは、キーボード、もしくはマウスとディスプレイを接続できない場合は、本装置のPOWERスイッチを、4秒程度押して、強制終了させてください。

□ POWERスイッチの機能を無効にしていませんか？

→ いったん本装置を再起動して、BIOSセットアップユーティリティを起動してください。

<確認するメニュー:「Security」→「Power Switch Inhibit」→「Disabled」>

□ 本装置がSecure Modeで動作していませんか？

→ Secure Mode中はPOWERスイッチが機能しません（強制電源OFFも含む）。Secure Modeを解除するにはキーボードからBIOSセットアップユーティリティで設定したユーザーパスワードを入力してください。

WebUIからシャットダウンを実行したが、電源がOFFにならない

□ セッション中にPOWERスイッチを押しませんでしたか？

→ リモートデスクトップでログイン時、もしくはセッションが切断されていない状態で、本装置のPOWERスイッチを押してしまった場合、WebUIからのシャットダウンは成功しません。上記のトラブルシューティングを参照して、対処してください。

POWERスイッチを押していない状態で、電源がOFFにならない場合は、最後のリモートデスクトップの使用から15分以上経過していることを確認した後、POWERスイッチを押してください。それでも再起動できない場合は、システムがハングアップしている可能性があります。本装置のPOWERスイッチを4秒程度押して、強制終了させてください。

WebUI画面で、上部に「状態：警告」もしくは「状態：情報」と表示される

□ 警告・情報の内容を確認して消去を実行していますか？

→ WebUIより警告がある場合に表示されます。「状態：警告」もしくは「状態：情報」の部分をクリックした後に、警告の対象となっているメッセージをクリックすると、警告内容の詳細が画面下部に表示されます。そこで「メッセージの消去」をクリックすることにより、状態が「状態：通常」と変化します。複数警告がある場合には、すべてのメッセージに対して上記操作を行ってください。

WebUI画面でストリーミングタブの項目を選択した際や、ストリーミングタブのコンテンツ管理画面で操作した際に、SSL証明書に関する警告が表示される

□ サーバ名を変更していませんか？

→ 本装置では、SSL証明書をインストールして出荷していますが、お客様の環境でサーバ名を変更した場合、この証明書とサーバ名が異なるため、SSL証明書に関する警告が表示される場合があります。この問題を解決するには、3章「システムのセットアップ」の「サーバー証明書の更新」の処理を行ってください。

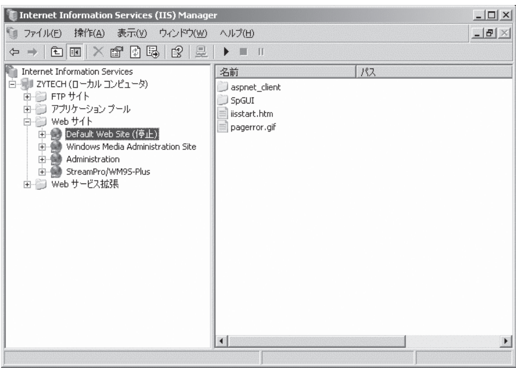
ストリーミング配信メニューのために、WebサーバでDefault Web Site(HTTP/ポート80)を利用しようとしたが利用できない

□ 設定を正しく変更していますか？

→ 本装置では、HTTPポート(ポート80)は、Windows Media Serviceでのストリーミング配信用に使用されています。ストリーミング配信メニューのためにWebサーバを立ち上げる場合は、Windows MediaサービスのHTTP配信機能を停止した後に、Webサーバを起動する必要があります。以下の手順で設定してください。

1. WebUIを起動し、[ストリーミング]ー[Windows Mediaサービス9]を選択して、Windows MediaサービスのWeb管理インタフェースを起動する。
2. マシン全体の[プロパティ]より、[制御プロトコル]を選択する。
3. [WMS HTTP サーバ制御プロトコル]をチェックした状態で[無効]をクリックし、プラグインを無効にする。
4. WebUIから[メンテナンス]ー[リモートデスクトップ]を選択し、Administrator権限のユーザーでログインした後、デスクトップ画面の[インターネット インフォメーション サービス(IIS) マネージャ]のアイコンをクリックする。
5. [Webサイト]を展開し、[Default Web Site]を選択した状態で、右クリックし、[開始]を選択してWebページを有効化させる。

   HTTPポート(ポート80)でのWebサーバが起動します。



StreamPro/WM9S-Plusをアンインストールした後、再度インストールを行ったところ、ストリーミング管理画面が表示されない

□ SSLを正しく設定していますか?
→ StreamPro/WM9S-Plusはインストール時にSSLの設定を自動で行いません。説明書を参照して、SSLの設定を行ってください。

POSTが終わらない

□ メモリが正しく搭載されていますか?
→ 最低2枚1組のDIMMが搭載されていないと動作しません。

□ 大容量のメモリを搭載していますか?
→ 搭載しているメモリサイズによってはメモリチェックで時間がかかる場合があります。しばらくお待ちください。

□ 本装置の起動直後にキーボードやマウスを操作していませんか?
→ 起動直後にキーボードやマウスを操作すると、POSTは誤ってキーボードコントローラの異常を検出し、処理を停止してしまうことがあります。そのときはもう一度、起動し直してください。また、再起動直後は、BIOSの起動メッセージなどが表示されるまでキーボードやマウスを使って操作しないよう注意してください。

□ 本装置で使用できるメモリ・PCIデバイスを搭載していますか?
→ 弊社が指定する装置以外は動作の保証はできません。

□ アレイボードは正しく取り付けられていますか?
→ アレイボードの取り付け状態やハードディスクドライブとのケーブルの接続状態を確認してください。

また、BIOSの設定についても確認してください。

□ 画面上にエラーメッセージは出ていませんか?
→ 画面上のエラーメッセージを確認し、適切な対処をしてください(→251ページ)。

□ OS起動(ネットワークブートを含む)を行うPCIボードを除き、BIOSセットアップユーティリティの設定でPCIスロットのOptionROM設定がDisabledになっていますか?
→ BIOSセットアップユーティリティで設定を確認してください。
<確認するメニュー: 「Advanced」→「PCI Configuration」>

内蔵デバイスや外付けデバイスにアクセスできない(または正しく動作しない)

□ ケーブルは正しく接続されていますか?
→ インタフェースケーブルや電源ケーブル(コード)が確実に接続されていることを確認してください。また接続順序が正しいかどうか確認してください。

□ 電源ONの順番を間違っていませんか?
→ 外付けデバイスを接続している場合は、外付けデバイス、本装置の順に電源をONにします。

□ ドライバをインストールしていますか?
→ 接続したオプションのデバイスによっては専用のデバイスドライバが必要なものがあります。デバイスに添付の説明書を参照してドライバをインストールしてください。

□ 本装置で使用できるSCSI装置ですか？

→ 弊社が指定する装置以外の動作は保証できません。

□ SCSI装置の設定を間違えていませんか？

→ 外付けSCSI装置を接続している場合は、SCSI IDや終端抵抗などの設定が必要です。詳しくはSCSI装置に添付の説明書を参照してください。

□ BIOSの設定を間違えていませんか？

→ PCIデバイスを接続している場合は、本装置のBIOSセットアップユーティリティでPCIデバイスの割り込みやその他の詳細な設定をしてください。PCIデバイスについては通常、特に設定を変更する必要はありませんが、ボードによっては特別な設定が必要なものもあります。詳しくはボードに添付の説明書を参照して正しく設定してください。
<確認するメニュー:「Advanced」→「Advanced Chipset Control」→「PCI Device」>

→ シリアルポート、USBポートに接続しているデバイスについては、I/Oポートアドレスや動作モードの設定が必要なものもあります。デバイスに添付の説明書を参照して正しく設定してください。
<確認するメニュー:「Advanced」→「I/O Device Configuration」>

□ SCSIコントローラ（オプション）の設定を間違えていませんか？

→ オプションのSCSIコントローラボードを搭載し、SCSI装置を接続している場合は、SCSIコントローラボードが持つBIOSセットアップユーティリティで正しく設定してください。詳しくはSCSIコントローラボードに添付の説明書を参照してください。
なお、SCSIコントローラボードが持つBIOSセットアップユーティリティを設定する際は、設定をするスロット以外の本体のBIOSセットアップユーティリティのOption ROM設定をDisabled設定にしてください。
<確認するメニュー: 「Advanced」→「PCI Configuration」>

キーボードやマウスが正しく機能しない

□ ケーブルは正しく接続されていますか？

→ 本装置背面にあるコネクタに正しく接続されていることを確認してください。

→ 本装置の電源がONになっている間に接続すると正しく機能しません（USBデバイスを除く）。いったん本装置の電源をOFFにしてから正しく接続してください。

□ BIOSの設定を間違えていませんか？

→ 本装置のBIOSセットアップユーティリティでキーボードの機能を変更したり、マウスを無効にしたりすることができます。BIOSセットアップユーティリティで設定を確認してください。
<確認するメニュー: 「Advanced」→「I/O Device Configuration」→「PS/2 Mouse」、「Advanced」→「Numlock」>

□ 本装置がSecure Modeで動作していませんか？

→ Secure Mode中はキーボードやマウスが機能しません。Secure Modeを解除するにはキーボードからBIOSセットアップユーティリティで設定したユーザーパスワードを入力してください。

フロッピーディスクにアクセス(読み込みまたは書き込みが)できない

□ フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットしていますか?
→ フロッピーディスクドライブに「カチッ」と音がするまで確実に差し込んでください。

□ 書き込み禁止にしていませんか?
→ フロッピーディスクのライトプロテクトスイッチのノッチを「書き込み可」にセットしてください。

□ フォーマットしていますか?
→ フォーマット済みのフロッピーディスクを使用するか、セットしたフロッピーディスクをフォーマットしてください。フォーマットの方法については、OSに添付の説明書を参照してください。

□ BIOSの設定を間違えていませんか?
→ 本装置のBIOSセットアップユーティリティでフロッピーディスクドライブを無効にすることができます。BIOSセットアップユーティリティで設定を確認してください。
<確認するメニュー: 「Main」→「Legacy Diskette A」>

□ 本装置がSecure Modeで動作していませんか?
→ Secure Mode中は、設定内容によってはフロッピーディスクドライブへの書き込みが禁止されている場合があります。Secure Modeを解除するにはキーボードからBIOSセットアップユーティリティで設定したユーザーパスワードを入力してください。

□ ケーブルは確実に接続されていますか?
→ フロッピーディスクドライブインタフェースケーブルが確実に接続されていることを確認してください。

DVD/CD-ROMにアクセスできない

□ DVD-ROMドライブのトレーに確実にセットしていますか?
→ トレーにはディスクを保持するホルダーがあります。ホルダーで確実に保持されていることを確認してください。

□ 本装置で使用できるDVD/CD-ROMですか?
→ Macintosh専用のディスクは使用できません。

□ ケーブルは確実に接続されていますか?
→ DVD-ROMドライブのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。

正しいDVD/CD-ROMを挿入したのに以下のメッセージが表示される

> CD-ROMが挿入されていないか、誤ったCD-ROMが挿入されています。
> 正しいCD-ROMを挿入してください。
>
> [OK]

□ ディスクのデータ面が汚れていたり、傷ついていたりしていませんか?
→ DVD-ROMドライブからディスクを取り出し、よごれ、傷などがないことを確認してから、再度ディスクをセットし、[OK]をクリックしてください。

ハードディスクドライブにアクセスできない

□ 本装置で使用できるハードディスクドライブですか?
→ 弊社が指定する装置以外は動作の保証はできません。

PCIデバイスを増設後、正しく動作しなくなった

□ ボードを正しく取り付けていますか?
→ 8章を参照して正しく取り付け直してください。

□ ボードに割り当てた割り込み設定を間違えていませんか?
→ 6章を参照して正しく設定してください。

□ OS起動を行う、アレイボードを除き、BIOSセットアップユーティリティの設定でOption ROM設定が、SCSIカードの搭載スロットはDisabledになっていますか?
→ BIOSセットアップユーティリティで設定を確認してください。
<確認するメニュー: 「Advanced」→「PCI Configuration」>

□ ネットワークボードを増設し、ネットワークブートを行わない場合、BIOSセットアップユーティリティの設定で増設したSlotのOption ROM設定がDisabledになっていますか?
→ BIOSセットアップユーティリティで設定を確認してください。
<確認するメニュー: 「Advanced」→「PCI Configuration」>

ネットワーク上で認識されない

□ ケーブルを接続していますか?
→ 本装置背面にあるネットワークポートに確実に接続してください。また、使用するケーブルがネットワークインタフェースの規格に準拠したものであることを確認してください。

□ BIOSの設定を間違えていませんか?
→ 本装置のBIOSセットアップユーティリティで内蔵のLANコントローラを無効にすることができます。BIOSセットアップユーティリティで設定を確認してください。
<確認するメニュー: 「Advanced」→「PCI Configuration」→
「Embedded NIC (Dual Gbit)」>

□ プロトコルやサービスのセットアップを済ませていますか?
→ 本装置専用のネットワークドライバをインストールしてください。また、TCP/IPなどのプロトコルのセットアップや各種サービスが確実に設定されていることを確認してください。

□ 転送速度の設定を間違えていませんか?
→ 本装置に標準で装備されている内蔵のLANコントローラは、転送速度が1Gbps、100Mbps、10Mbpsのどのネットワークでも使用することができます。この転送速度の切り替えまたは設定は「PROSet」から行いますが、「オートネゴシエーション最適速度」という機能は使用せず、「1000」、「100」、「10」のどちらかに設定してください。また、接続しているHubと転送速度やデュプレックスモードが同じであることを確認してください。

スタンバイ状態からWake on LANが動作しない

□ ネットワーク(周辺機器)の設定を正しくしていますか?
→ Hub/クライアント共に1000M固定設定ではスタンバイ状態からWake on LANができません。

Hub設定はAuto-Negotiationにしてください。またクライアント側はAuto Negotiation/最適速度設定にしてください。

Windows Media 9 Appliance Serverについて

OSを起動できない

□ フロッピーディスクをセットしていませんか?
→ フロッピーディスクを取り出して再起動してください。

□ EXPRESSBUILDER (SE) CD-ROMをセットしていませんか?
→ EXPRESSBUILDER (SE) CD-ROMを取り出して再起動してください。

□ OSが破損していませんか?
→ 修復プロセスを使って修復を試してください(288ページ)。

障害発生時、「自動的に再起動する」の設定で、設定どおりに動作しない

→ コントロールパネルの[システム]で障害発生時に「自動的に再起動する」の設定にかかわらず、自動的に再起動する場合や再起動しない場合があります。再起動しない場合は、手動で再起動してください。

[コントロールパネル]→[システム]→[詳細]→[起動/回復]

ブルー画面で電源OFFができない

→ ブルー画面で電源をOFFにする時は、強制電源OFF(POWERスイッチを4秒間押し続ける)を行ってください。一度押しでは電源はOFFになりません。

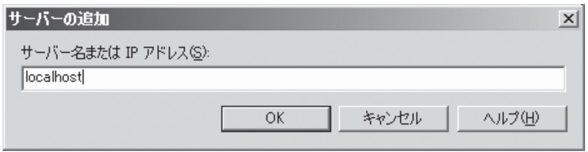
リモートデスクトップより、Windows MediaサービスのMMC管理コンソールを起動した際に、管理できるサーバない

□ マシン名を変更していませんか?
→ Windows MediaサービスのMMC管理コンソールより起動すると、初期セットアップ等で、マシン名を変更した場合、管理対象サーバから、ローカルサーバが消える場合があります。以下の手順で管理コンソールにローカルサーバを追加することができます。

1. 起動画面上の「→ Add a server」の矢印部分をクリックする。



2. サーバの追加ダイアログボックスで、「localhost」と入力し、[OK]をクリックする。



以上の処理でローカルホストの管理ツリーが追加されます。

LANドライバの速度設定を1000Mbpsから100Mbpsに変更したのにESMPRO/統合ビューアのデータビューアでネットワークの詳細を参照すると、設定したスピードが不正に表示(1000Mbps)される

□ 問題ありません。

→ LANドライバの速度設定を変更した場合、表示が不正になりますが、LANドライバの動作には影響ありません。

「コンピュータの管理」−「システムツール」−「システム情報」−「システム概要」表示にて、プロセッサのスピードが正しく表示されない

□ 問題ありません。

→ 表示が不正になりますが、装置の動作には問題ありません。

「システムプロパティ」−「全般」タブの中で、プロセッサの名称がずれて表示される

→ 装置の動作には問題ありません。

イベントビューアのログについて

運用中にイベントビューアに記録されるログについて説明します。

プリンタ関連のエラーがある

□ 問題ありません。

→ 管理PCにプリンタドライバが組み込まれている場合、リモートデスクトップ機能を使用して本装置に接続するとプリンタ関連のエラーが本装置のイベントログに出力される場合がありますが、動作上の問題はありません。

クラッシュダンプやメモリに関するログがある

説明(D)
ｸﾗｯｼｭ ﾀﾞﾝﾌﾟを使用できません。NTはｸﾗｯｼｭ ﾀﾞﾝﾌﾟに対してﾌﾞｰﾄ ﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝのﾍﾟｰｼﾞﾌｧｲﾙを初期化できませんでした。ｼｽﾃﾑに物理ﾒﾓﾘが3.8GB以上あることが原因の可能性があります。

重要 **ログが残らない場合がありますが、障害が起きた際に原因を早急に確認できるよう以下の説明と同様の解決手段をとっておくことをお勧めします。ページングファイルサイズの説明については、4章の「ディスクとメモリ管理」を参照してください。**

□ メモリの増設をしていませんか？

→ メモリを増設した場合は、ページングファイルのサイズも増やす必要があります。増設したメモリに相応するようにページングファイルのサイズを設定し直してください。
ページングファイルサイズは、搭載メモリ×1.5倍以上が基本です。
必ずOSパーティションに上記サイズを確保してください。STOPエラー発生時にメモリダンプを採取するために必要です。
[コントロールパネル]の[システム]を選択し、[パフォーマンス]をクリックします。「仮想メモリ」の[変更]をクリックしてください。
初期サイズと最大サイズを変更し、[変更]をクリックします。
再起動が必ず必要です。

警告とエラーが記録されている

イベントID: 11
ソース: IANSMiniport
種類: 警告
分類: なし
説明: 次のアダプタリンクは接続されていません。
Intel(R)PRO/1000 ～

イベントID: 13
ソース: IANSMiniport
種類: 警告
分類: なし
説明: Intel(R)PRO/1000 ～　がチームで無効化されました。

イベントID:　16
ソース:　IANSMiniport
種類:　エラー
分類:　なし
説明:　チーム#0、最後のアダプタはリンクを失いました。ネットワークの接続が失われました。

イベントID:　22
ソース:　IANSMiniport
種類:　警告
分類:　なし
説明:　プライマリアダプタはプローブを検出しませんでした。Intel(R)PRO/1000 〜原因でチームが分割されている可能性があります。

□ 問題ありません。
→ Teamingの設定をした場合、システム起動時に上記のイベントログが記録されますが、LANドライバの動作上問題ありません。

警告が記録されている(その1)

イベントID:　37
説明:　ライブラリ内で不明な問題が発生したため、WMI ADAP は"ファイル名"パフォーマンスライブラリを読み込むことができませんでした。また0x0Service Pack 3 CD-ROMを使用した場合は、DVD/CD-ROMドライブから抜き取ってください。

イベントID:　41
説明:　Collect 関数で時間違反があったため、ADAP は"ファイル名"パフォーマンスライブラリを処理できませんでした。または009 サブキーで値が見つからなかったため、WMI ADAPはパフォーマンスライブラリ"ファイル名" のオブジェクトインデ ックス"インデックス番号"を作成しませんでした。

イベントID:　61
説明:　open関数で時間違反があったため、WMI ADAPは"ファイル名"パフォーマンスライブラリを処理できませんでした。

□ 問題ありません。
→ カウンタの問題またはWMI(Windows Management Instrumentation)パフォーマンスライブラリdredgerの無効な正の戻り値が原因で登録されることがありますが、運用上は特に問題はありません。

警告(LoadPerf)が記録されている(その2)

イベントID:　2000
説明:　インストールファイルでオブジェクトの一覧が見つかりませんでした。オブジェクトの一覧をインストールファイルに追加すると、パフォーマンスカウンタを計測するときに、システムのパフォー マンスが改善されます。

□ 問題ありません。
→ WMI(Windows Management Instrumentation)が表示されたパフォーマンスカウンタを求めることが原因で登録されることがありますが、運用上は特に問題はありません。

警告(rasctrs)が記録されている(その3)

イベントID:　2001
説明:　インストールファイルでオブジェクトの一覧が見つかりませんでした。オブジェクトの一覧をインストールファイルに追加すると、パフォーマンスカウンタを計測するときに、システムのパフォー マンスが改善されます。

□ 問題ありません。
→ Systemroot¥system32¥driversフォルダ配下にNDISWAN.SYSが存在するかどうか確認してください。システムの再起動後に本エラーが登録されていない場合は、運用上は特に問題はありません。

エラーが記録されている(その1)

イベントID:　107
ソース:　WMIxWDM
説明:　報告されたマシンチェックイベントは致命的なエラーです。

□ 問題ありません。
→ 本エラーログは「致命的なエラー」として登録されますが、WMIxWDMは回復可能なエラーがプロセッサ内で発生したときに登録されるイベントであり、致命的なエラーではありません。
エラー内容は、CPU内部にてエラーを検出したことを示していますが、エラーは自動的に訂正されるため、運用上は問題ありません。

エラーが記録されている(その2)

イベントID: 10016
ソース: DCOM
種類: エラー
説明: アプリケーション固有 権限の設定では、CLSID {BA126AD1-2166-11D1-B1D0-00805FC1270E} をもつCOMサーバーアプリケーションに対するローカルアクティブ化アクセス許可をユーザーNT AUTHORITY¥NETWORK SERVICE SID (S-1-5-20) に与えることはできません。このセキュリティのアクセス許可は、コンポーネントサービス管理ツールを使って変更できます。
詳細な情報は、http://go.microsoft.com/fwlink/events.asp の [ヘルプとサポート センター] を参照してください。

□ 問題ありません。
→ LANボードを増設した後の初回起動時に発生することがあります。2回目以降は記録されませんので無視してください。運用上、特に問題はありません。

エラー(SCSIポート)が記録される(その3)

→ バックアップ装置を本装置のSCSIコントローラ(オンボードSCSI)に接続して使用する場合は、バックアップ装置のファームウェアアップデートが必要になる場合があります。ファームウェアバージョンの確認およびファームウェアアップデートの方法は5章、「ストリーミングサーバソフトウェア」の「バックアップ装置ファームウェアアップデートツール」を参照してください。

アプリケーションログにエラーが記録されている

イベントID: 323
ソース: WMServer
種類: エラー
説明: サーバのプラグイン「WMS Client Logging」が次の情報で失敗しました: エラーコード = 0x80072af9、エラーテキスト ='そのようなホストは不明です。'

□ 問題ありません。
→ ネットワークの線を抜いた状態で起動した場合に発生します。ネットワーク接続が有効な状態では本エラーは発生しません。

Windows Mediaサービスについて

マルチキャスト配信が停止する

→ 長時間マルチキャスト配信を行うと、公開ポイントが停止する場合があります。停止した場合、その公開ポイントのマルチキャストアナウンスメントウィザードを再度実行し、公開ポイントを開始してください。

なお、本現象についてはマイクロソフト社で調査中です。正式な見解は、マイクロソフト社から公開される情報をお待ちください。

メモリリークが発生する

→ 長時間連続起動していると、メモリリークが発生する場合があります。システムの再起動を定期的に実施してください。なお、本現象についてはマイクロソフト社で調査中です。正式な見解は、マイクロソフト社から公開される情報をお待ちください。

EXPRESSBUILDER (SE)について

EXPRESSBUILDER (SE)から本装置を起動できない場合は、次の点について確認してください。

□ POSTの実行中にEXPRESSBUILDER (SE) CD-ROMをセットし、再起動しましたか？
→ POSTを実行中にEXPRESSBUILDER (SE) CD-ROMをセットし、再起動しないとエラーメッセージが表示されたり、OSが起動したりします。

□ BIOSのセットアップを間違えていませんか？
→ 本装置のBIOSセットアップユーティリティで起動デバイスの優先順位を設定することができます。BIOSセットアップユーティリティでCD-ROMドライブが最初に起動するよう順序を変更してください。
<確認するメニュー: 「Boot」>

EXPRESSBUILDER (SE)の実行中、何らかの障害が発生すると、以下のようなメッセージが表示されます。メッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	原因と処理方法
本プログラムの動作対象マシンではありません。	EXPRESSBUILDER (SE)の対象マシンではありません。対象マシンで実行してください。
NvRAMへのアクセスに失敗しました。	不揮発性メモリ(NvRAM)にアクセスできません。
ハードディスクへの アクセスに失敗しました。	ハードディスクドライブが接続されていないか、ハードディスクドライブが異常です。ハードディスクドライブが正常に接続されていることを確認して ください。
マザーボード上に装置固有情報が存在しません。オフライン保守ユーティリティの［システム情報の管理］を使用してバックアップした情報をリストアするか、情報を書き込んでください。この作業は保守員以外は行わないでください。オフライン保守ユーティリティを起動しますか？	マザーボード交換時など、EXPRESSBUILDER (SE)が装置固有情報を見つけられない場合に表示します。保守員はオフライン保守ユーティリティを使用して情報を書き込んでください。

この他にも障害を検出するとエラーメッセージが表示されます。表示されたメッセージを記録して保守サービス会社までご連絡ください。

ディスクアレイに関するセットアップ中に障害を検出するとディスクアレイのセットアップをスキップします。このようなメッセージが現れた場合は、LSI Logicディスクアレイコントローラまたはハードディスクドライブに障害が発生しているおそれがあります。保守サービス会社に保守を依頼してください。

マスターコントロールメニューについて

オンラインドキュメントが読めない

□ Adobe Acrobat Readerが正しくインストールされていますか?

→ オンラインドキュメントの一部は、PDF形式で提供されています。あらかじめAdobe Acrobat Reader(Version 4.05以上)をご使用のオペレーティングシステムへインストールしておいてください。なお、Adobe Acrobat Readerは、EXPRESSBUILDER (SE)からインストールすることができます。マスターコントロールメニューを起動後、「ソフトウェアのセットアップ」の「Adobe Acrobat Reader」を選択してください。

オンラインドキュメントの画像が見にくい

□ ご使用のディスプレイは、256色以上の表示になっていますか?

→ ディスプレイの設定が256色未満の場合は、画像が見にくくなります。256色以上の表示ができる環境で実行してください。

マスターコントロールメニューが表示されない

□ ご使用のシステムは、Windows NT 4.0以降、またはWindows 95以降ですか?

→ CD-ROMのAutorun機能は、Windows Server 2003/Windows 2000、およびWindows NT 4.0、Windows 95以降でサポートされた機能です。それ以前のバージョンでは自動的に起動しません。ご注意ください。

□ <Shift>キーを押していませんか?

→ <Shift>キーを押しながらCD-ROMをセットすると、Autorun機能がキャンセルされます。

□ システムの状態は問題ありませんか?

→ システムのレジストリ設定やCD-ROMをセットするタイミングによってはメニューが起動しない場合があります。そのような場合は、CD-ROMの¥MC¥1ST.EXEをエクスプローラ等から実行してください。

メニュー項目がグレイアウトされている

□ ご使用の環境は正しいですか?

→ 実行するソフトウェアによっては、管理者権限が必要だったり、本装置上で動作することが必要だったりします。適切な環境にて実行するようにしてください。

ディスクアレイについて

ディスクアレイに関するトラブルについては次の項目について確認してください。

本装置に標準装備のAdaptec HostRAIDについては次に記載する内容、またはオンラインドキュメント「Adaptec Storage Manager™ユーザーズガイド」を参照してください。
オプションのディスクアレイに関するトラブルについてはオプションボードに添付の説明書を参照してください。

OSをインストールできない

□ ディスクアレイコントローラのコンフィグレーションを行いましたか？
→ ディスクアレイコントローラのコンフィグレーションユーティリティを使って正しくコンフィグレーションしてください。

□ ロジカルドライブを複数作成していませんか？
→ ロジカルドライブを1つだけ作成してからインストールしてください。

OSを起動できない

□ ディスクアレイコントローラのBIOS設定が変更されていませんか？
→ POSTの画面からディスクアレイBIOSユーティリティを起動してBIOSの設定を正しい値に変更してください。

□ POSTでディスクアレイコントローラを認識していますか？
→ ディスクアレイコントローラが正しく接続されていることを確認してから電源をONにしてください。
→ 正しく接続していても認識されない場合は、ディスクアレイコントローラの故障が考えられます。契約されている保守サービス会社または購入された販売店へ連絡してください。

リビルド（再構築）ができない

□ リビルドするハードディスクドライブの容量が少なくありませんか？
→ 故障したハードディスクドライブと同じ容量のディスクを使用してください。
→ 誤ったコンフィグレーション情報をリストアしていないか確認してください。

□ 整合性チェックが実行中ではありませんか？
→ 整合性チェック終了後、リビルドを開始してください。

□ RAID構成が、RAID0ではありませんか？
→ RAID0には冗長性がないため、リビルドはできません。故障したハードディスクドライブを交換して、再度コンフィグレーション情報を作成し、初期化してから、バックアップデータを利用して復旧してください。

オートリビルドが機能しない（増設DISK筐体なども含む）

□ ハードディスクドライブを交換（ホットスワップ）するときに十分な時間を空けましたか？
→ オートリビルドを機能させるためにハードディスクドライブの取り外し・取り付けには90秒以上の間隔を空けてください。

□ 整合性チェックが実行中ではありませんか？
→ 整合性チェック終了後、リビルドを開始してください。

ESMPROについて

ESMPRO/ServerAgent(Windows版)について

→ 5章、または添付の「EXPRESSBUILDER (SE)」CD-ROM内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent FAQガイド～よくある質問について～」でトラブルの回避方法やその他の補足説明が記載されています。参照してください。

ESMPRO/ServerManagerについて

→ 添付の「EXPRESSBUILDER (SE)」CD-ROM内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManagerインストレーションガイド」でトラブルの回避方法やその他の補足説明が記載されています。参照してください。

Adaptec Storage Manager(ASM)について

→ 5章、またはオンラインドキュメントの説明を参照してください。

Power Console Plusについて

→ 5章、またはオンラインドキュメントの説明を参照してください。

障害情報の採取

万一障害が起きた場合、次の方法でさまざまな障害発生時の情報を採取することができます。

重要

- **以降で説明する障害情報の採取については、保守サービス会社の保守員から情報採取の依頼があったときのみ採取してください。**
- **障害発生後に再起動されたとき、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのままシステムを起動してください。途中でリセットし、もう一度起動すると、障害情報が正しく採取できません。**

イベントログの採取

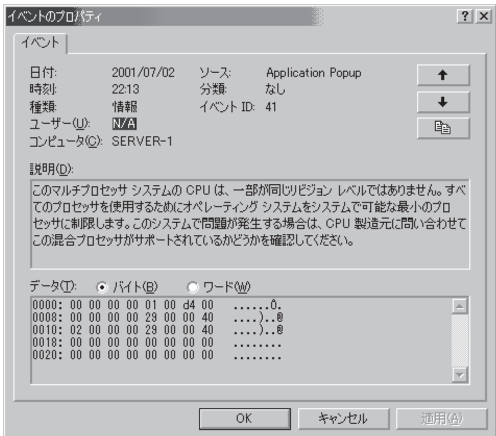
本装置に起きたさまざまな事象(イベント)のログを採取します。

重要

STOPエラーやシステムエラー、ストールが起きている場合はいったん再起動してから作業を始めます。

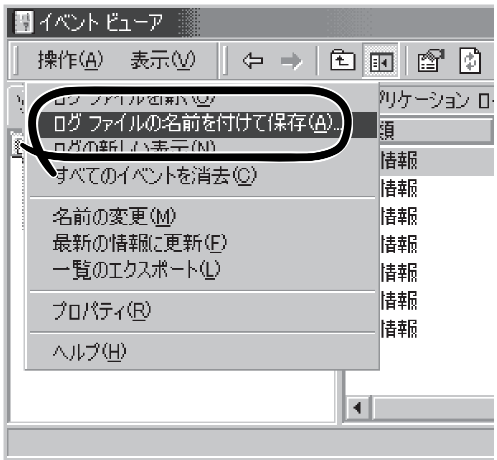
ヒント

オプションのCPUの中には異なるレビジョン(ステッピング)のものが含まれている場合があります。異なるレビジョンのCPUを混在して取り付けた場合、イベントビューアのシステムログに以下のようなログが表示されますが、動作には問題ありません。



1. コントロールパネルから[管理ツール]ー[イベントビューア]をクリックする。
2. 採取するログの種類を選択する。

   [アプリケーション ログ]には起動していたアプリケーションに関連するイベントが　記録されています。[セキュリティ ログ]にはセキュリティに関連するイベントが記録されています。[システム ログ]にはWindowsのシステム構成要素で発生したイベントが記録されています。
3. [操作]メニューの[ログファイルの名前を付けて保存]コマンドをクリックする。



4. [ファイル名]ボックスに保存するアーカイブログファイルの名前を入力する。

5. [ファイルの種類]リストボックスで保存するログファイルの形式を選択し、[OK]ボタンをクリックする。

詳細についてはWindowsのオンラインヘルプを参照してください。

構成情報の採取

本装置のハードウェア構成や内部設定情報などを採取します。
情報の採取には「診断プログラム」を使用します。

重要 **STOPエラーやシステムエラー、ストールが起きている場合はいったん再起動してから作業を始めます。**

1. スタートメニューの[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。

   [コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。

2. [管理ツール]アイコンをダブルクリックし、[コンピュータの管理]アイコンをダブルクリックする。

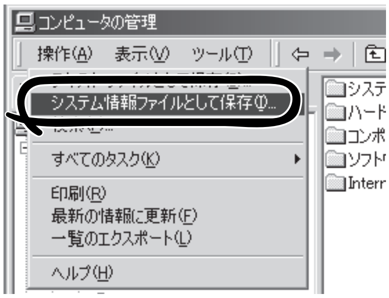
   [コンピュータの管理]ダイアログボックスが表示されます。

3. [システムツール]ー[システム情報]をクリックする。

4. [操作]メニューの[システム情報ファイルとして保存]コマンドをクリックする。

5. [ファイル名]ボックスに保存するファイルの名前を入力する。

6. [保存]ボタンをクリックする。



ワトソン博士の診断情報の採取

ワトソン博士を使ってアプリケーションエラーに関連する診断情報を採取することができます。ワトソン博士の詳細については、OSのヘルプを参照してください。

メモリダンプの採取

障害が起きたときのメモリの内容をダンプし、採取します。ダンプをDATに保存した場合は、保存に使用したツールをラベルに記載しておいてください。インストール時には自動的に保存先やページングファイル(仮想メモリ)サイズを設定しますが、メモリを増設した場合には、システムのページングファイル(仮想メモリ)のサイズをメモリ容量 に応じて増やす必要があります。詳しくは「メモリの管理」(4章)を参照してください。

重要

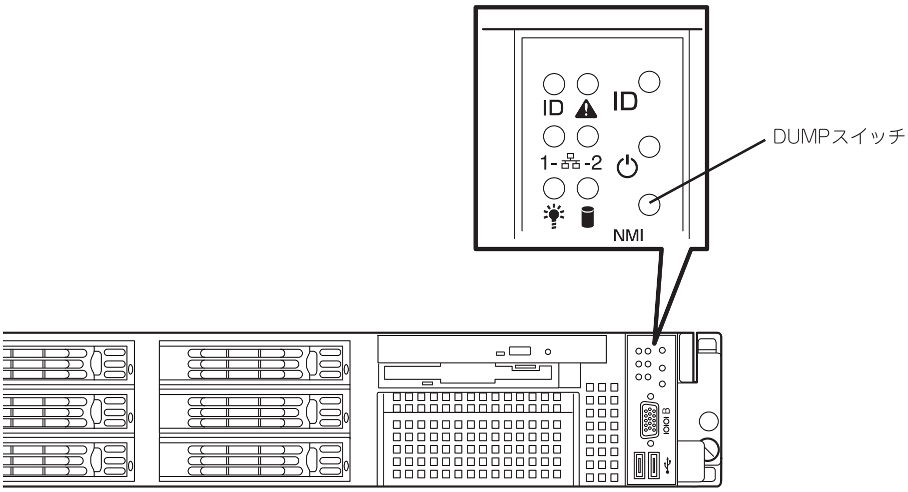
- **保守サービス会社の保守員と相談した上で採取してください。正常に動作しているときに操作するとシステムの運用に支障をきたすおそれがあります。**
- **障害の発生後に再起動したときに仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。途中でリセットして起動し直すと、データを正しくダンプできない場合があります。**

採取時の注意事項

DUMPスイッチを押してダンプを実行した後に本装置が再起動しない場合があります。この場合、POWERスイッチを押して本装置の電源をOFF/ONしてください。

メモリダンプの採取

障害が発生し、メモリダンプを採取したいときにDUMPスイッチを押してください。スイッチを押すときには金属製のピン(太めのゼムクリップを引き伸ばして代用可)をスイッチ穴に差し込んでスイッチを押します。



スイッチを押すと、メモリダンプは設定されている保存先に保存されます(CPUがストールした場合などではメモリダンプを採取できない場合があります)。

重要

つま楊枝やプラスチックなど折れやすいものを使用しないでください。

IPMI情報のバックアップ

IPMI情報を採取します。情報を採取するためには、ESMPRO/ServerAgentがインストールされていなければなりません。

1. スタートメニューから[プログラム]ー[ESMPRO ServerAgent]ー[ESRASユーティリティ]を選ぶ。

   [ESRASユーティリティ]ウィンドウが表示されます。

2. ツリービューより[最新情報]を選択して、ローカルコンピュータの情報を取得する。

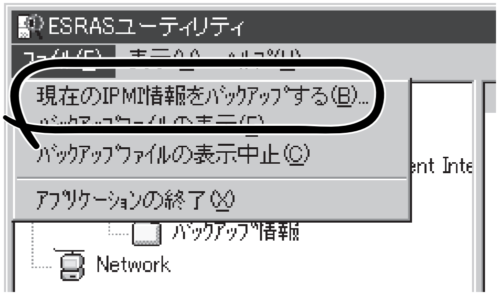
   データが表示されれば取得ができたことになります。

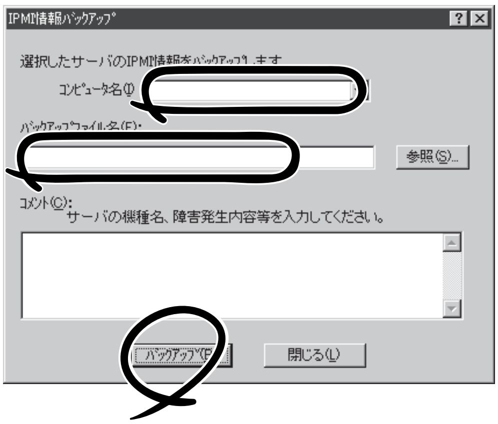
3. [ファイル]メニューから[現在のIPMI情報をバックアップする]をクリックする。



4. バックアップ対象のコンピュータ名を確認する。

5. 退避するバックアップファイル名と保存する場所を指定して[バックアップ]をクリックする。





システムの修復

何らかの原因でシステムを起動できなくなった場合は、回復コンソールを使用してシステムの修復を行います。ただし、この方法は詳しい知識のあるユーザーや管理者以外にはお勧めできません。詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

重要

ハードディスクドライブが認識できない場合は、システムの修復はできません。